

支援者に求められる「遊び心」の検討

A Consideration about “Playful Mind” Necessity Caregivers

足立法子*

(令和3年12月17日受理)

要約

支援者に求められる「遊び心」について、保育者養成課程に在籍する学生を対象に探索的な検討を行った。「遊び心」という言葉に対し、「遊び、好奇心（物事に対する態度）、素直さ、おもしろさ、工夫すること、想像力／イメージを膨らませる、ありのまま／ユニークさ、楽しさ、喜び」の9つの意味を捉えていた。また、支援者に求められる「遊び心」については、「支援者の心構え、支援者のかかわり方、支援者の遊び心による効果、具体的な遊びや対応方法」の4項目に関する記述が得られた。対象者の気持ちに寄り添うことの重要性、子ども達が楽しむことができる工夫や楽しさについて多く言及された。

「遊び心」という視点で支援を行うことに関して検討したところ、純粋な視点や柔軟性、寛容さをもった対応にまで言及され、支援を考える視点のひとつとしての可能性を見出すこととなった。

キーワード：遊び心、支援者、保育者養成課程

keywords：Playful Mind, Caregivers, Training Courses for Childcare Workers

1. はじめに

ある児童福祉施設の職員の方との会話が本研究の発端である。保育者養成課程において実施している学生の実習訪問先のできごとである。児童福祉施設のひとつである母子生活支援施設を訪問し、支援者の方と交わした会話において、「遊び心」が使われた。子どもや子育て中の保護者へ対応をする際に求められる資質について、「支援者には遊び心が必要ですよね。」と職員の方がおっしゃったのである。会話の際には、「余裕がある、さまざまな視点から見ることができる、支援対象者の働きかけに対して柔軟に対応できる」ということとして、私は「遊び心」を捉えたと記憶している。その理解でよかったのか、他の人も同じ認識を持っているのか、これ以降「遊び心」が私にとっての気になる存在となった。幼稚園教諭や保育士を目指す学生がどのような認識をしているか、彼らがどのような視点で支援者という存在を捉えているか、「遊び心」を切り口として捉えてみたく

なったのである。

さて、「遊び心」と聞くと遊びや笑い、ユーモアが想起される。「遊び」について、幼児教育では遊びと学びという視点から多岐にわたる検討がなされている。子ども達にとって遊びは身近である。歩くことができるようになれば歩くことが嬉しく、その得た力を発揮し、できるようになったことを実行することに喜びや楽しさを感じ、遊んでいるように見受けられる。幼児教育の手法として、子ども達が主題や課題に自然に取り組むことができるよう、遊びを通して体験し、それが子ども達の学びにつながると考え実践されている。

では、ユーモアはどのように捉えられているだろうか。雨宮(2016)は、「ユーモアは出来事に真面目にかかわるだけでは生まれない。やや外に立つ視点をもつことで、出来事におかしさを見いださう。その結果として見いだされたユーモアが、ある種の攪乱要因となって、集団の方向の修正に寄与することもある。こうしたユーモアのも

(*あだちのりこ 保育科講師 発達心理学)

つ、両義的なかわり方をレディ（2008/2015）は脱関与的関与（Disengaged Engagement）と呼んでいる。ユーモアにはピューリタンの真面目なポジティブ追求と相容れない不真面目さや両義性があり、単にポジティブ感情をもたらすだけでなく、既存の枠組みや前提を攪乱したり、相対化するところがある。さらに、ユーモアには、人と親しんだり、励ましたりするポジティブな側面だけでなく、人をあざけったり、さげすんだりするようなネガティブな側面もある。」と、ユーモアについて紹介している。

ユーモアに関連して想起されることに笑いがある。人はなぜ笑うのか、人にとっての笑いの意味はどのようなものなのだろうか。雨宮（2016）は以下のように述べている。『例えば「ユーモア」について、「おもしろい」や「おかしい」といったところのなかにわきあがる気持ちとしてとらえ、心的現象として検討がなされている。また、「笑い」についても、アリストテレス以降の思想家たちが、人はなぜ笑うのか、何を笑うのか、その謎を解き明かそうと論考を残してきた。人がなぜ笑うのかという問題を理論的立場から解こうとするが、知的な側面の一方で、くすぐりやじゃれあいで生じる生理的反応という身体的側面もある。この身体的側面についてまで、思想家たちの概念分析は届かなかった。』と言及している。笑いについて、様々な分野において検討されているが、統一理論はない（浦、2017）。しかしながら、緩やかな共通点として見出されていることとして、脅威や緊張、違和感があり、それらが解放や緩和されると笑いが生まれると浦（2017）は紹介した。また、嫌なことや緊張すること、脅威が起こったとき、心に余裕があり客観的に捉えられる人がより笑うのではないか、という仮説が立てられるとも述べている（浦、2017）。

では、「遊び心」についてはどのように捉えられているのだろうか。「遊び心」の意味を調べたところ、国語辞典「新明解」によると「仕事や生活のなかに、実用的な目的を離れて、それ自体を楽しむ要素を取り込もうとする精神的なゆとり。」とある。広辞苑では「①音楽を好む心。②遊びた

い気持ち。また、遊び半分の気持ち。」と説明されている。杉本ら（2008）は福祉援助への応用を目的とした「遊び心」概念を整理し、①「仕事」との対義語、②ゆとり、③楽しみ、④実践概念、⑤コミュニケーション能力、⑥「仕事」に活かすものの6点を見出している。また、杉本ら（2008）は、「遊び心」には遊びそのものと、本来は遊びではないが仕事や課題遂行にゆとりや楽しみとして活用するものの2通りの使用のされかたをしているとも結論づけている。杉本ら（2008）は、福祉利用者が援助者の援助を受けながら日々送っている、ある意味「厳しい」生活や人生に、ゆとりや楽しみとしての「遊び心」をもってもらおうというものであるとも示している。

支援者に求められる「遊び心」とはどのようなものであるのか、まずは探してみたい。

2. 目的

「遊び心」について、人々はどのようなことを思い描いているのだろうか。先の「遊び心」についての発話があった社会的養護を担う母子生活支援施設には、保育士が支援者として勤務している。そこで、保育者養成課程に在籍する学生とともに「支援者に求められる遊び心」について検討する。また、保育者養成における心理学関連科目への応用を検討することを目的として、本研究を行う。

まず、それぞれの学生がどのような認識を「遊び心」に抱いているのか、素朴な遊び心に関する捉え方を探ることを目的とする。また、支援者に求められる「遊び心」があると仮定し、どのように考えるか個々の意見を尋ね、探索的に検討してみようとするものである。

3. 方法

調査対象者は短期大学に所属する卒業年次の学生とした。教育相談の授業において調査依頼した。また、学生が「遊び」を体験し、他の学生と楽しさを共有すること、「遊び心」についてイメージしやすくするために学生自身に遊びを体験してもらった。子どもの視点に立つことや保護者の視点を理解すること、保育者による支援について学

び検討する授業である。手順としては、調査用紙を配布し、それぞれの項目への記述を求めた。まず、a) アイスブレイクおよび楽しさを味わう機会として「熊が出た!」を行い集団での遊びを体験した。2チームに分かれて「くまがでた」と次の人へ伝え、伝えられたら「えっ?」と聞き返してからまた次の人へ「くまがでた」と続ける。最後の人まで伝達する速さを競うゲームである。1回目は練習、2回目が本番、3回目は偶数の順番にある人は熊を好きな動物に変えて伝えるように指示をして実施した。b) 輪郭が描かれているところへ顔を自由に描き、描いた絵を他者と共有する「お絵かきタイム」を設けた。「遊び心」が求められるのではないかと考え、「らくがき」をする機会とした。

自由記述の設問と遊びの実施手順は次のとおりである。①「遊び心」についての自由記述、②アイスブレイク「熊が出た!」、③楽しさの共有に関する自由記述、④お絵描きタイム、⑤支援者に求められる「遊び心」についての自由記述を求めた。

4. 結果

本研究では上記調査内容のうち、①「遊び心」についての自由記述、⑤支援者に求められる「遊び心」についての自由記述のみを検討項目とする。調査協力者は当該授業への参加者70名（欠席者を除く）であった。このうち70名から回収し、調査用紙の回収率は100%であった。ただし、回答の内容が質問に沿っていないものを除外した。①の有効回答は70名分、⑤の有効回答は授業の感想や子どものことについて記述されていた4名分を無効とし、66名分を検討対象とした。

自由記述として得られた回答をエクセルに入力し入力順に通し番号をつけ、個人が判別できないようデータ処理をした。

設問ごとの記述について分類し、カテゴリーを説明する項目を設けた。カテゴリーごとに代表的な記述内容を選択し、質問項目ごとに表1と表2-1～表2-4を作成した。記述内容が複数の項目に該当する場合には、該当項目ごとに分類した。

(1) 素朴な「遊び心」への認識

得られた回答について、分類し記述の整理を行った。まず、各個人の記述を1つの意味を示す文章へと分割したところ、129の記述が得られた。その記述内容を代表する項目を設け、66項目を設けることができた。この66項目をさらに類似する項目に分類し、「1. 遊び、2. 好奇心（物事に対する態度）、3. 素直さ、4. おもしろさ、5. 工夫すること、6. 想像力／イメージを膨らませる、7. ありのまま、ユニークさ、8. 楽しさ、9. 喜び」の9つのカテゴリーを設けた（表1）。なお、各項目へ分類した記述数は表1に記載した。

(2) 支援者に求められる「遊び心」

得られた66名の回答について、次の手順にて分類し記述の整理を行った。まず、各個人の記述内容を一つの意味を示す文章にわけ、146の記述が得られた。記述内容を概観したところ、支援者に求められる「遊び心」として①支援者の心構え $n = 79$ 、②支援者のかかわり方 $n = 38$ 、③支援者の遊び心による効果 $n = 18$ 、④具体的な遊びや対応方法 $n = 11$ が記述されており、これらを大項目とした。次に①～④の項目ごとの内容を分類するため、再度記述内容を代表するキーワードを設け、類似する記述をまとめたところ、次のようなカテゴリーを設けることができた。①支援者の心構えについては「楽しさ／楽しむ ($n = 25$)、こどもの頃の心情 ($n = 7$)、こどもの視点・立場に立つ ($n = 7$)、固定概念からの脱却 ($n = 6$)、子どもへの視点 ($n = 6$)、豊かな感性・発想 ($n = 6$)、柔軟さ ($n = 5$)、視点の変換・広い視野 ($n = 5$)、自由さ ($n = 4$)、純粹さ ($n = 2$)、無邪気さ ($n = 2$)、その他 ($n = 4$)」へと分類し表2-1に示した。②支援者のかかわりは「興味の湧く提案・工夫 ($n = 10$)、楽しさへの視点 ($n = 9$)、積極的な姿勢 ($n = 7$)、柔軟さと寛容さ ($n = 8$)、その他 ($n = 4$)」へ分類し表2-2へ示した。③支援者の遊び心による効果については「子どもの心情の変化 ($n = 8$)、人間関係の質の変化 ($n = 4$)、豊かな発想・遊びの発展 ($n = 3$)、楽しさの共有 ($n = 2$)、その他 ($n = 1$)」へ分類し表

表 1. 素朴な「遊び心」の自由記述の分類 (N=129)

カテゴリー	記述内容の分類	カテゴリー	記述内容の分類		
1. 遊び	01. 遊びたいという思い (n = 8)	04. おもしろさ	14. おもしろさを感じる仕掛け (n = 2)		
	03. 遊びたくなるように考えたこと (n = 1)		23. 少しおもしろくしたもの (n = 1)		
	04. 遊びに関する発想 (n = 1)		33. おもしろいと思うことをする (n = 3)		
	05. 遊びに対する関心 (n = 1)		35. ふざけた気持ち (n = 2)		
	06. 遊ぶことで気づくこと (n = 1)		38. ユーモアのあること (n = 1)		
	11. 大人が子どものように遊ぶこと (n = 1)		58. 良い意味でのふざけ (n = 1)		
	12. 大人も一緒に遊ぶこと (n = 1)		65. おもしろい部分を見つける (n = 1)		
	20. 気楽に遊ぶ (n = 1)		05. 工夫すること	08. アレンジする (n = 3)	
	43. 楽しく遊ぶ (n = 2)			19. 工夫を加えること (n = 1)	
	55. 遊びに夢中になること (n = 1)			25. 想像力を働かせる (n = 1)	
	56. 遊びの雰囲気を取り入れること (n = 1)			49. 工夫やアイデア (n = 6)	
	57. 遊ぶ時の気持ちをもつこと (n = 1)			06. 想像力／ イメージを膨らませる	09. イメージを膨らませる (n = 1)
	60. 遊び方やルールを考えること (n = 1)				52. 自分で視点を変える才能 (n = 1)
	61. 玩具をみると気分があがる (n = 1)		62. 無邪気にイメージを膨らませる (n = 1)		
63. 遊びを主体で考える心 (n = 1)	07. ありのまま、 ユニークさ	02. 少しいたずらをする (n = 2)			
64. 色々なことを遊ぼうとすること (n = 1)		07. ありのままの様子 (n = 1)			
02. 好奇心 (物事に対する態度)		10. 色々なことに挑戦すること (n = 1)	15. 型にはまらない (n = 1)		
		16. 活発に好きなことに取り組むこと (n = 1)	36. 普通とは違う視点 (n = 1)		
		17. 興味や関心 (n = 4)	37. 無邪気な気持ちや様子 (n = 1)		
		18. 好奇心旺盛 (n = 4)	39. ゆるい感じ (n = 1)		
		26. その場を楽しむ (n = 1)	45. 決まった考え方ではない (n = 1)		
		34. チャレンジする気持ち (n = 1)	46. 個人の自由で物事を考える (n = 2)		
		40. わくわくする気持ち／心／こと／もの (n = 11)	47. 後のことを考えない (n = 1)		
		44. 興味津々な気持ち (n = 3)	51. 思ったり感じたようにすること (n = 1)		
		54. 探求心をもって取り組むこと (n = 1)	08. 楽しさ	27. 楽しいことを考える (n = 2)	
		59. してみたいという気持ち (n = 4)		28. 楽しいと思うこと (n = 1)	
66. どきどきすること (n = 1)		29. 楽しくなるもの (n = 1)			
03. 素直さ		21. 子どものときの考え・気持ち (n = 2)		30. 楽しく行うこと (n = 2)	
	22. 子どものような無邪気さで楽しくいること (n = 1)	31. 楽しいもの (n = 3)			
	24. 素直な気持ち (n = 2)	32. 楽しもうとする (n = 1)			
	48. 好きなことをする (n = 1)	41. 楽しいと思う心 (n = 11)			
	50. こどものような姿・気持ち (n = 4)	42. 楽しさを感じられるようにすること (n = 2)			
		09. 喜び	53. 純粹な喜び (n = 1)		

2 - 3へと示した。④具体的な遊びや対応方法については「具体的な活動 (n = 6)、遊び方の工夫

(n = 4)、その他 (n = 1)」へと分類し、表 2 - 4に示した。

表 2-1. 支援者に求められる「遊び心」自由記述：「支援者の心構え」の分類

カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容	
楽しさ／楽しむ (n = 25)	子どもと一緒に楽しむ	子どもへの視点 (n = 6)	子ども一人ひとりを尊重して関わること	
	厳しいだけでなく、楽しさが必要		「支援をしてあげる」ではなく「(支援をして)楽しく生きられるようにする」気持ちをもつ	
	その場を楽しませようと思うこと		子ども達がどうしたら楽しく生活できるのかを考える	
	楽しい気持ちを持って取り組むこと		子どもの姿から興味を持って子どもと関わること	
	ともに楽しむこと		子どもの発想を大切にすること	
	支援者・利用者、両者が楽しめること			
	自分から楽しむ			
	すぐに打ち解けて楽しく過ごす心	豊かな感性・発想 (n = 6)	豊かな感性	
	一緒に遊ぼうとする意志や姿勢		イメージを膨らませる	
	楽しい心を忘れずにいる		発想を豊かにすること	
	子どもの気持ちに共感できる心			
	こどもの頃の心情 (n = 7)	子ども達のような心を持つこと	柔軟さ (n = 5)	「まあいいか」という気持ちのゆとり
		児童と同じ気持ちになって接すること		あまりかたく物事を考えすぎない
		子どもの頃に楽しかったことを思い出す		柔軟な考え
子どもの頃の純粋に楽しんでいる心を思い出して接する・遊びを提供する・楽しさを共有する		視点の変換・広い視野 (n = 5)	色々な目線からたくさん物の物に気づく	
			色々なことに興味をもつ	
		色々な面から物事を捉える		
こどもの視点・立場に立つ (n = 7)	子どもと同じ立場で考える遊び心	自由さ (n = 4)	正しいルールばかりを教えるのではなく、ルールの中でも、自由な考えをもち工夫すること	
	子どもの目線に立って物事を考える		自由に物事を考え、遊びにつなげられるようにすること	
	子ども達がどうしたらワクワクできるのかを考える			
	子ども達がどうしたら興味を持っているのかを考える	純粋さ (n = 2)	偽りのない気持ち	
	子ども達と一緒に目線と心で新しく発見しながら楽しむ		純粋な気持ちで楽しさや喜びを感じる	
		無邪気さ (n = 2)	無邪気な姿	
	無邪気さを大切にすること			
固定概念からの脱却 (n = 6)	考えを決めつけない	その他 (n = 4)	想像力、ユーモア	
	決まったものの形にとらわれない		前向きに遊びを考えられる	
	ルールを守ることにとらわれすぎない		向上心を持つこと	

5. 考察

自由記述を分類した結果から、設問ごとに考察をする。

(1) 素朴な「遊び心」への認識

「遊び心」について、言葉から連想することを記述してもらった。記述内容として、遊びそのものを連想したり、楽しむことや遊びに夢中になること、工夫をしたり、好奇心をもって物事に取り組むという捉え方が見受けられた。また、素直な

気持ちでいることや物事を面白い様子、服装へのアレンジなどについても視点が及んでいることが分かった。さらに、視点を変えて物事を捉えること、規制のものにとらわれず自由な発想を楽しもうとすることとして捉えられていることがうかがえた。

(2) 支援者に求められる「遊び心」

①支援者の心構え、②支援者のかかわり方、③支援者の遊び心による効果、④具体的な遊びや対

表2-2. 支援者に求められる「遊び心」自由記述：「支援者のかかわり」に関する記述の分類

カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容
興味の湧く提案・工夫 (n = 10)	生活にイベントごとや機会をつくること	積極的な姿勢 (n = 7)	(仕方なくではなく) 遊びたいと思えること
	色んな遊びを生み出すこと		全力で関わる
	工夫しながらの支援		子どもと一緒に活動に参加する
	遊びを提案		子どもと一緒に楽しんで遊ぶ
	自分で考えたり工夫しようとする		本気になって遊ぶ
	新鮮で興味関心が湧くような遊びや情報の提案		子どもと同じ視点で遊ぶ
	アイデアをたくさん出す		子どもと一緒に全力で楽しむことができる心
	子どもの普段の遊びに支援者が一工夫を加えること	柔軟さと寛容さ (n = 8)	遊びを広げていく支援
	児童がわくわくできるような工夫、アイデア		子どものアイデアや発想からさらに発展した遊びができるような支援
	子ども達の遊びに何かをプラスして発展できるような働きかけ		子どもが思うままにできるような環境で遊べるようにする
楽しさへの視点 (n = 9)	楽しめることを考える	柔軟さと寛容さ (n = 8)	遊びの時間にはルールや決まり事をしない
	楽しんでできるようにする		想像力を豊かに子どもがしてみたいとことをやらせてあげる
	みんなで楽しむことができる遊びを提案		遊びをする中でルールを変える
	楽しめる工夫をする		児童の自由な発想を引き出す
	楽しいと思うことができる工夫	その他 (n = 4)	切り換えを大切に
	楽しく嫌にならないように学ぶことができるようにする		支援者は子どもの主体性を引き出す遊びが必要
	楽しい物事をとりいれる		子どもの成長に合った遊びを提案する
	楽しくあそべるように変化をつける		ちょっとした言葉がけにも遊び心を出す
楽しさを伝える		(大人になったらわかることなどを) 夢をもってのように話す	

応方法として記述を分類した。自由記述による回答を求めたため、「遊び心」がもたらす効果としての記述が見受けられたと考えられる。しかしながら、支援者の心構えや姿勢がもたらす効果についても分類項目として得られたことから、子どもや支援対象者へ与える影響を考え、かかわり方を検討し、その視点を回答した学生が有していると捉えることも可能である。

次に、分類した項目ごとに検討する。①支援者の心構え(表2-1)について、対象者を肯定的に捉えようとする視点があることが伺える。支援者の視点として楽しさや柔軟性、固定概念にとらわれず広い視野をもって子ども達にかかわり、子どもの気持ちに寄り添うことが求められていると捉えていることが見受けられる。また、他者の立場や視点に立ち、柔軟性や豊かな感受性を求めら

れると検討しただけでなく、純粋な視点によって対象者を捉えることに言及されたことが興味深い。支援対象となる子どもや利用者を理解しようとし、支援方法を検討するために求められる重要な資質について言及されているように見受けられる。

②支援者のかかわり(表2-2)について、支援対象となる子ども達が楽しむことができるような工夫や楽しさそのものについて多く言及された。また、支援者自身が工夫し積極的にかかわるだけでなく、子どもが主体的に自由に活動できるよう柔軟性や寛容さをもった対応が必要であることが言及された。支援対象者の意向を重視し、それに応えようとする視点が見受けられた。

③支援者の遊び心による効果(表2-3)に分

表 2-3. 支援者に求められる「遊び心」：「支援者の遊び心による効果」に関する記述の分類

カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容
子どもの心情の変化 (n = 8)	子どもがやってみたい、面白いと感じながら生活することが必要	楽しさの共有 (n = 2)	子どもたちがやってみて楽しいことや他の人に教えてあげたいと思うような遊び心
	子ども達がわくわくして楽しくなる		楽しさを共有できる
	子ども達が興味をもってしてみたいと思う	豊かな発想遊びの 発展 (n = 3)	遊びがさらに発展すること
	積極的に動こうと思えるようになる 不安などもなくなる。		発想力が豊かになる 子どもたちが工夫を加えるといったように、興味関心が遊びにつながる
人間関係の質の変化 (n = 4)	ふざけあったり、なんでも言える仲になる	その他 (n = 1)	成長にもつながる
	周りや子どもの雰囲気良くなり、楽しくなる		
	利用者の方と親近感をもつことができる		

表 2-4. 支援者に求められる「遊び心」：具体的な遊びや対応方法

カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容
具体的な活動 (n = 6)	頭や体を使う宝物探しゲームなどするとよい	遊び方の工夫 (n = 4)	ルールを少し難しく変える
	楽しみながら発想力を豊かにできる遊び		子どもがつっこめるようにする
	誰でもどこでも楽しめるお絵描きやチームワークで楽しむゲームなど		あえて間違える
	児童が喜ぶような玩具や遊びや製作物		楽しみながら少し変になる
	何歳になっても楽しいと思える活動を設ける	その他 (n = 1)	子どもらしく気持ちを高めて思いっきり体を動かす

類した記述内容から、支援者に遊び心があることによって、支援対象となる子ども達の心情に正の変化をもたらすことが言及された。不安の軽減や肯定的な行動が増えること、楽しみながら参加し、なんでも話せるようになり不安がなくなるなど、子ども同士の関係性にも変化があると捉えていることが見受けられた。「遊び心」を支援者がもつことによって、支援の場が楽しいだけでなく互いを認め合える場となり、変化や成長の機会を提供することへもつながることの示唆を得られたように感じる。

④具体的な遊びや対応方法(表2-4)では、具体的な遊びについての言及を分類した。誰でも参加できるような活動を提供することが検討された。また、遊び方の工夫において、支援者のおどけた様子や冗談を交えて関わる様子が見受けられた。「遊び心」のある対応が支援対象者を遊びに引きつけ、参加を促す働きかけとなると考えられていると捉えられる。

(3) 保育者養成課程「心理学関連科目」への応用

保育者養成課程の心理学関連科目では発達途上にある子どもたちへ理論にもとづく検討と対応を可能とするための授業を展開している。また、子どもたちを育むための大人の役割や子どもの保護者への対応についても学び、議論を深め、支援に求められる保育者の役割について学びを深めているところである。

本研究において調査を依頼した学生たちはすべての実習を終え、卒業を目前にしており、支援者に求められることについて、各々の考えが明らかになりつつある状態と言える。子どもたちが示す様々な姿に寄り添い、彼らの行動が意図することを読み取ろうとするとき、「遊び心」が視点の幅を広げる役割を持つことが回答内容から捉えることができる。保育者が支援対象者と出会う際には、計画を立てて臨むことがほとんどであるが、常に計画どおりに子どもたちが行動を示してくれるとは限らない。また、保護者へ対応をする際には、様々な生育歴や価値観をもつ可能性があり、固定

的な視点で捉え理解し対応するには困難さを伴う可能性がある。支援の対象として子どもたちや保護者の状況を見極めながら、幅のある視点をもって彼らのことを考え対応する際に、「遊び心」がその視点に柔軟性をもたらすのではないかと示唆を得る機会となった。

6. まとめ

支援者に求められる「遊び心」

支援者に求められる「遊び心」について探索的に保育者養成課程の学生に尋ねた。調査の冒頭において「遊び心」のみを説明なく尋ねたところ、言葉から受け取る印象をそのまま答えてくれたように見受けられる。好奇心や探求心、ありのままの姿やユニークさという項目が得られ、日常語として「遊び心」を捉え、また理解していると受け取ることができた。

支援者に求められる「遊び心」についての自由記述では、支援対象となる子どもを視野に置いた記述が多く見受けられた。支援者の心構えやかかわり、その効果に関する記述が得られ、柔軟なまなざしが支援者には求められると考えているであろうことを受け取ることとなった。また、「遊び心」という切り口で尋ねたことによって、子ども達が見せる可能性のある、あるいは支援者が求める姿だけでなく普段とは異なる様々な姿に対して、ルールをなくすことや自由な発想で活動できるような配慮へと記述が及んでおり、広い視点をもって支援対象者を捉える機会となるようにも見受けられた。自由記述によって回答を求めたことによって、記述内容に多くのばらつきが生じており断定することはできないが、回答した学生の視点の広さに気づききっかけとなった。また、支援者の資質を考えるてがかりとして、「遊び心」を用いることで支援の対象者やその状況をプラスの方向性に捉えていることが見受けられた。ともすれば「遊び心」を切り口として支援を検討することにより、互いの捉え方や関係性への影響が生じるとも言えるのではないだろうか。視点の変換に「遊び心」という切り口が寄与する可能性を感じた。

参考・引用文献

- 雨宮俊彦、2016、「笑いとユーモアの心理学」、ミネルヴァ書房
- 上野行吉、2003、「ユーモアの心理学—人間関係とパーソナリティ—」、サイエンス社
- 浦光博、2017、「笑いの心理学：関西人はなぜ笑う？」、追手門学院大学笑学研究所年報、2、5-16
- 五味太郎、2009、「らくがき絵本：五味太郎50%」、ブロンズ新社
- 佐藤郁哉、2008、「質的データ分析法」、新曜社
- 杉本豊和・柴生田美里・西方規恵 他、2008、福祉援助への応用を目的とした「遊び心」概念の整理(2007年度研究助成金成果報告)、研究年報(白梅学園大学白梅学園短期大学教育・福祉研究センター) 編集委員会、13、130-133
- 瀧口優・小松歩・金田利子・山路千華、2019、遊び観・遊び心と保育・子育て：東京都下における保護者及び保育者への調査研究、研究年報(白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所) 編集委員会編、24、3-11
- 諸澄敏之編、2005、「みんなのPA系ゲーム」243、啓林書院